

ヤゴ里親作戦～トンボのこどもがやってきた～

■プログラムの概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none">身近な虫のトンボの幼虫のヤゴを育てて、虫に関心や親しみを持ち、命の大切さを感じる。区内の小学校で救出されたヤゴを、幼児にも飼育してもらい、トンボを守る環境活動として小学校と一体となって実施してもらう。		
キーワード	いきもの		
対象	幼児		
時間	40分	実施場所	室内
使用するもの	ヤゴ、飼育容器、割り箸、落ち葉、汲み置きの水 紙芝居「やごのすけものがたり」		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none">導入紙芝居（ヤゴのすけものがたり） ヤゴがトンボになるまでのお話飼育方法の説明ヤゴの観察 授業後は、羽化するまでヤゴを飼育し、適宜観察する		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「虫はすき？」の問いかけで、身近な虫を思い出させる。 ・トンボの写真を見せて、何の虫かクイズ ・トンボの子どもがどれか、写真を見せてクイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せ、トンボがどんな虫なのかを思い出させる。 ・トンボの子ども(幼虫)を「ヤゴ」と呼ぶことを伝えておく
15分	<p><紙芝居></p> <p>「やごのすけものがたり」</p> <p>卵が産み付けられて、羽化するまでのお話</p>	
8分	<p><飼育方法の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育容器に入れるものとその理由を説明 水：トンボの子どもは水の中に棲む 割り箸：羽化に必要 落ち葉：隠れ家になる ・餌とその与え方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育には何が必要か質問しながら説明する。 ・紙芝居の内容を振り返りながら説明すると効果的。 ・「実施にあたって留意する点」参照
2分	<p>観察・飼育時の注意事項(特に羽化時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声を出さない ・羽化時にライトで照らしたりしない ・羽化時は触らない ・少し離れて静かに見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽化は、夜から朝方に行うことが多い。 ・室内においておくと、羽化が見られなくても、羽化した後のトンボを見ることができる。 ・羽化時は繊細なので、絶対に触らないこと、飼育ケースを動かさないこと。 ・羽化時とその前後以外は、比較的丈夫なので、触ることもできるが、子どもは加減がわからずつぶしてしまうこともあるので注意。
10分	<p><ヤゴの観察></p> <p>飼育するヤゴを実際に観察する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育ケースに入れて見せるか、簡易的にフタ付きプラスチック瓶に入れて回すと、観察しやすい。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
ヤゴ	約 10 匹	ヤゴ救出作戦を実施した付近の小学校または、エコポリスセンターより提供を受ける。
虫かごなど飼育容器・ 角型ペットボトル	4～10 本	アカネ・シオカラ系のヤゴ 2～3 匹につき 1 個 ヤンマ系のヤゴ 1 匹につき 1 個 ペットボトルは飼育容器の代用品となる。 ①側面を四角く切り抜き、切り口が鋭くなっている のでビニールテープで覆う。 ②切り抜いた面を上にして横にする
割り箸・木の棒	4～10 本	ペットボトル 1 本につき 1～2 本 割り箸は、割る前の状態で使用 羽化時ののぼり木として使用
落ち葉	適量	ヤゴの隠れ家となる
汲み置きの水	バケツ 1～2 杯 分	塩素を抜くため、一晩汲み置いたものを用意
紙芝居 (ヤゴのすけものがたり)	1 セット	

■実施にあたって留意する点

- ・ヤゴのエサは小さな虫で、アカムシやイトミミズ、ボウフラ、エビなど多岐にわたるので、池や水たまりなどで少し探せば手に入る。またアカムシは、ホームセンターや釣具屋などで安価で購入できるので扱いやすい。ただし、生きている虫を好んで食べるので、死んだ虫や冷凍された虫を餌にするときは、ヤゴの目の前で動かして与えるとよく食いつく。冷凍アカムシの場合は解凍後、ピンセットなどで端をつまみ、水面の上からアカムシだけを目の前に入れるようにして、震わすように揺らすと食いつくことが多い。餌は 1 日 1 回程度。
- ・飼育容器の水換えは、汚れたら換える程度でよい。
- ・羽化の予兆は、羽の部分があくらくらんでくること、目が大きく黒々と輝いてくること、水面から顔を出す頻度が高くなること、エサを食べなくなることで、見分けられる。